

「改革提言」の要約

中期的構想の策定に向けて	
岡山理科大学と連携した「池田動物園 課題解決 プロジェクト」の実施	約1年間、岡山理科大学経営学部と連携しながらPBL（課題解決型学習）の手法を用いたプロジェクトに取り組むことになった。池田動物園関係者、経営学科の学生、教員の三位一体でチームを結成し、経営環境分析に基づき経営戦略やマーケティング戦略の構築を図り、施策の具体化を目指す。また同プロジェクトと連携しながら園内整備計画の策定を進め、動物種選定、動物舎再配置、施設整備なども再検討されるべき
短期的構想（順次着手する事業）について	
①新しい動物園の“顔”となる動物の導入	レクリエーション施設としての役割を果たすためには、現在飼育している動物の中から新しい動物園の“顔”となる動物を打ち出していくとともに、開園以来の関係がある木下サーカス(株)の木下嘉子副社長らとも連携し、費用の抑制につながるレンタルの可能性も含めて新しい動物の導入をしていかなければならない
②教育的役割の充実	「ふれあい体験」「エサやり体験」などを通じて、貴重な動物と触れ合う機会の提供に努めているが、今後は動物介在教育、動物介在療法などの分野でも魅力向上に努めなければならない。公開講座、移動動物園（有料）なども検討すべき。遠足などで児童生徒に再三訪れてもらえるよう働き掛けることも必要
③創意工夫による動物園の魅力アップ	既存の取り組みをブラッシュアップし、内容の充実を図ることも重要だが、現場スタッフに過大な負担とならないよう、企業・教育機関とのタイアップ、あるいは一般市民からの公募などを通じ新しいコンテンツの開発を進めていくことが求められる
④財源確保の取り組みの拡充	2017年度の収支（入園者数10万8795人、売上高1億3496万円、赤字額976万円）を基にした試算では、入園者を8000人増やせば収入の安定を図れるが、好天が条件など入園料だけに依存する体制では安定性を欠く。企業や行政による貸し切りイベント（入園者2000人程度）を年5回ほど実施すれば資金調達可能になると思われる。法人サポーター制度、一般のサポーター制度、グッズ開発などの強化にも取り組んではどうか
⑤駐車場問題の解決に向けて	駐車スペースの不足が来援する上でのネックになっている。公共交通機関の利用促進も必要だが、JR岡山駅から徒歩での経路にある奉還町商店街などともタイアップしながら道程に楽しさを演出する“仕掛け”を施すことで、誘導を試みることも検討すべき
⑥考える会を契機とした協働体制の構築	今後これまで以上に効果的な広報、あるいは幅広い集客につながる事業展開を図れるよう、委員各位、オブザーバー各位が所属する団体・企業と広報活動、イベントの共催、無料入園券の活用等で連携した活動を行っていききたい
施設整備について	
CLT工法を導入し、緑あふれる動物園に	心も緑あふれる空間づくりへ、森林資源を活用したCLT（直交集成板）工法を導入した施設整備を検討し、入場ゲート、動物舎など可能なことから順次着手してほしい